

災害を乗り越えて ～家族経営で災害に負けない畜産経営を!～

宮城県農業高等学校 農業科 2年 佐藤 瑞穂

「べこちゃん、おはよう!」の父の掛け声で我が家の搾乳が始まります。私の家は祖父の代から続く酪農家で、搾乳牛40頭、育成牛30頭、和牛3頭を飼育しています。飼料畑20ヘクタールでは、乳牛の体調や栄養バランスを考えた自家産の牧草とデントコーンを栽培しています。父・母が経営の中心の家族経営で、父は毎日牛に愛情をいっぱい注いで酪農業を営んでいます。

今年の春から兄も経営に加わりました。兄は、優良な和牛から受精卵を取り出し、乳牛に移植することによって、より収益性のある酪農経営を行うこと、さらには新しい分野で自分の力を発揮したいという夢があり、我が家に和牛繁殖分野を新設しました。また、酪農経営と、和牛繁殖経営を行うことで、経営のリスク分散をはかるという目的もありました。この経営計画をもとに、飼育頭数を増やしたり、飼料畑の面積を増やしたりと数年前から計画的に規模拡大を図ってきました。私の夢、家族の夢、家族で複合的な酪農経営を行うために準備が着々と進んでいました。

しかし、昨年10月、後に「令和元年東日本台風」と42年ぶりに命名された台風19号が宮城県を襲いました。私の住む宮城県丸森町にも大きな被害をもたらしたのです。今まで経験した事のないような雨と風、自宅の裏山からどんどん流れ込む水、道路が川のようになっていました。自宅も危険だったため、その日の夜は車の中で一晚を過ごしました。夜が明け、車からの景色に驚きました。自宅は土砂崩れにあい半壊状態、農業機械や肥料を保管していた倉庫は潰され壊滅状態でした。幸いなことに牛舎の被害はほとんどなく、ほっとしました。しかし、断線による停電と生命線である道路が寸断され、孤立し、集乳車が来られない日々が続きました。乳牛は毎日朝夕の搾乳が欠かせないため、発電機を使い電気を起こして搾乳するのですが、集乳車がこられないので全て廃棄処分することとなりました。廃棄処分する際の父の表情や後ろ姿から、大切に育てた乳牛から搾った牛乳を捨てなければならない無念さを感じることができました。テレビには、浸水した丸森町役場、何日間も水が引かない住み慣れた町が毎日のように映し出され、甚大な被害であったことが分かりました。仕事の帰りに川の濁流に流された近所の方も行方不明、母の知り合いの一家も行方不明、未だ一人が見つかっていません。誰もがこんな事になるとは思っていないとても信じられない出来事でした。いつも通学で通っている道、いつも利用している交通機関、これらが全て利用できなくなり、現実として受け入れられない自分と、現実として受け入れなければならないと考える自分がいて、なんともいえない気持ちでした。

父の知り合いの酪農家は、川の側だったため、道路がなくなり、断水し、燃料や食料の

確保も難しい状況となっていました。父と兄、母と私の4人で、燃料や食料を背負い、歩いて川を渡り届けに行きました。とても不安で悲しい気持ちでした。家に着くと、岩はむき出し、今まであった道も家も流され言葉が出ませんでした。食料も燃料も届かない日が続きとても大変だったそうです。私たちが食糧などを届けると、祈るような姿で感謝されました。災害に負けてはいけない、負けない経営をしなければならないと強く感じた瞬間でした。

昨今の異常気象による猛暑や豪雨災害はこれからも頻発するでしょう。この災害に対処できるような心構えと備えが必要だと思いました。今回の台風被害では草地も被害に遭い、壊れた道路や畑の造成からやらなくてははいけません。被害に遭った畑の一部は土砂の仮置場となり今も工事車両が入り作業をしています。まわりの田畑もそうですが、いつ復旧して前のように使えるのか分からない状況です。たとえ畑が戻ったとしても、踏み固められ固くなった土壌の改良から始めなくてははいけません。この状況を目の当たりにした私は、嗜好性が高く、成分の良い牧草作りに一から挑戦し、牛にたくさん食べさせることができる環境をもう一度整えたいと考えるようになりました。そして、町の復興が進み、畑が使えるような状況になれば、耕作が行われていない放置された農地なども利用し、1箇所集中することなく草地を分散させて牧草を作っていきたいと考えています。

私は部活が無い休みの日は家で手伝いをしています。補助的な手伝いになりますが、濃厚飼料を配合したり、牧草を食べさせたり、子牛にミルクをあげたり、そしてミルクカーの洗浄をしています。濃厚飼料や牧草の成分で牛の体調が変わってしまうと父から聞き驚きました。それまで牧草だったら何でも良いと思っていた私はとても考えさせられました。私が宮城県農業高校への進学を選んだのは牛のこともありますが、牛の飼料、そして土の成分の勉強をして良い牧草を作り、牛に食べさせたいと考えたからです。でも今回の災害。中々前には進めませんが私も勉強をして力になれるよう頑張りたいと思います。

これからは世界中で色々な災害が起こると思います。温暖化もそうですが、自然災害にはかないません。輸入粗飼料に頼るのではなく、自分の作った牧草やデントコーンを食べさせ、自給自足の安心安全でしかも栄養価の高い粗飼料を食べさせ、良い和牛、良い乳牛を育てていきたいと考えています。その育てた牛が共進会で上位入賞したり、乳牛の検定成績で全国でも上位に入るような牛を作出できるよう品種改良にも力を入れていきたいと考えています。

畜産農家は高齢者が多く後継ぎが少ないため減少しています。しかし、近年女性経営者が増えてきていると聞きます。女性が出来る仕事か？と言われますが、夢やしっかりとした目標があれば男性も女性も関係ありません。私は女性ですが、家族となら色々挑戦できると考えています。私は兄と妹、弟の4人兄弟です。私たち兄弟の、最終的な目標は家族で酪農経営を行い今の牧場をもっともっと大きくする事です。父と私が酪農と繁殖を担当し、兄が和牛を

担当、弟と妹たちが粗飼料生産を担当するというように家族で業務分担し、災害が起きてもリスクを分散させ安定した畜産業を営んでいきたいと考えています。具体的には、搾乳牛を今の5倍の200頭、繁殖和牛も50頭に増頭し、家族労働力でどこまでやれるか限界に挑戦したいと考えています。色々な困難もあると思いますが家族・兄弟で力を合わせて乗り越えていきたいです。

後継者不足に悩まされる畜産の仕事。これは私の住んでいる町だけではなく全国的な問題です。確かに休みはなく、きつい仕事です。しかし、手をかけた分だけ家畜達は返してくれます。牛達も私達も快適に過ごせるよう、これからも勉強し実践していきたいと思っています。高校卒業後は農業大学校に進学し、より専門的な知識や技術を学習しながら多くの資格を取得したいと考えています。私はこれからの畜産を担っていく世代として意識を高め、来る将来、次の世代へ橋渡しができるよう夢に向かって邁進したいと思っています。

ご本人による朗読を
こちらからお聴きになれます。

